

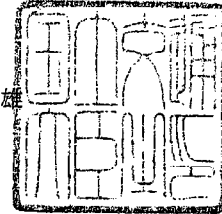


認定書

国住指第3048号
平成 18年 3月 30日

社団法人カーテンウォール・防火開口部協会
専務理事 矢入 裕久 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第112条第14項第二号(防火設備の作動性能等)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
CAS-0260
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
耐熱板ガラス入鋼製開き戸(準耐火構造壁・床付き)
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名：

耐熱板ガラス入鋼製開き戸（準耐火構造壁・床付き）

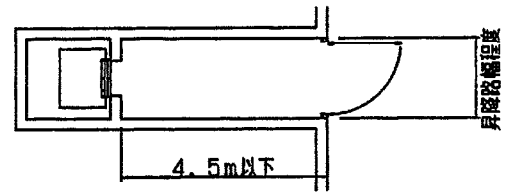
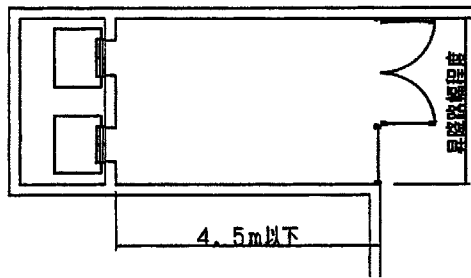
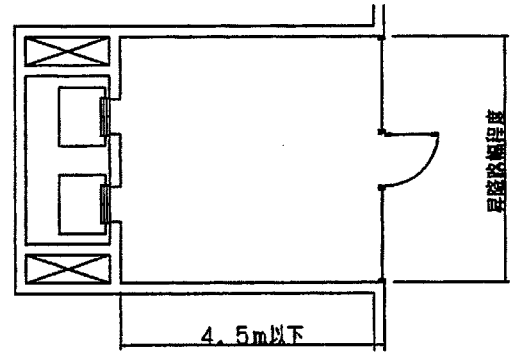
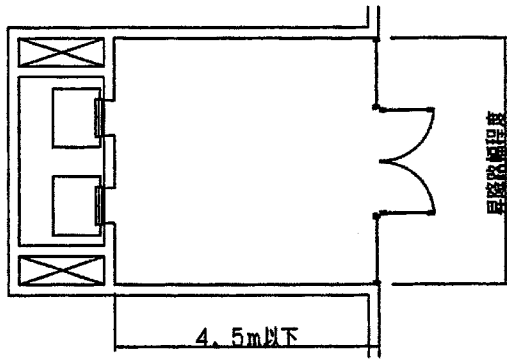
2. 構成：

本申請に係る仕様は、以下の通りとする。

- (1) エレベータ乗り場戸は、建築基準法第2条第九号の二に規定する防火設備又は建築基準法施行令第112条第1項に規定する特定防火設備とする（遮炎性）。
- (2) 壁及び床は、準耐火構造とする。
- (3) 外気に向かって開くことができる窓及び排煙設備の排煙口にあつては、これを(2)の壁又は天井に設けることができる。
- (4) 耐熱板ガラス入鋼製開き戸（以下、「鋼製開き戸」という。）は、国土交通大臣認定の防火設備（耐熱板ガラス入り鋼製はめ殺し窓（認定番号 EB-9131）と耐熱板ガラス入り鋼製開き戸（認定番号 EB-8132）を組み合わせたもの）とする。
- (5) 鋼製開き戸は、常時閉鎖式とする。
- (6) 当仕様を構成する空間の壁及び床の内装の仕上げは準不燃材料とする。
- (7) 当仕様を構成する空間の幅は昇降路の幅に、柱、はり、パイプスペース等平面計画上必要とするものを加えた最小限の幅とする。
- (8) 当仕様を構成する空間の奥行きは、対面式のエレベーターのあるロビーの場合で6m以内、前記以外の場合で4.5m以内とする。
- (9) (7)及び(8)における幅及び奥行きは、非常用エレベーターの避難階における乗降ロビーにあつては、消防隊の活動に必要な大きさとする事ができる。
- (10) エレベーター1列の台数は、6台までとする。
- (11) 煙感知器は、消防法（昭和23年法律第183号）第21条の2第1項の規定による検定に合格したものとする。
- (12) 連動制御器は、以下の要件を満足するものとする。
 - (1) 煙感知器又は熱煙複合式感知器から信号を受けた場合に自動閉鎖装置に起動指示を与えるもので、随時、制御の監視ができるもの。
 - (2) 火災による熱により機能に支障をきたすおそれなく、かつ、維持管理が容易に行えるもの。
 - (3) 連動制御器に用いる電気配線及び電線が、次に定めるものであるもの。
 - ① 昭和45年建設省告示第1829号第二号及び第三号に定める基準によるもの。
 - ② 常用の電源の電気配線は、他の電気回路（電源に接続する部分及び消防法施行令（昭和36年政令第37号）第7条第3項第一号に規定する自動火災報知設備の中継器又は受信機に接続する部分を除く。）に接続しないもので、かつ、配電盤又は分電盤の階別主開閉器の電源側で分岐しているもの。
- (13) 自動閉鎖装置は、以下の要件を満足するものとする。
 - (1) 連動制御器から起動指示を受けた場合に開き戸を自動的に閉鎖させるもの。
 - (2) 自動閉鎖装置に用いる電気配線及び電線が、上記(12)の(3)に定めるものであるもの。
- (14) 予備電源は、昭和45年建設省告示第1829号第四号に定める基準によるものであること。
- (15) 本仕様に用いられる気密材については、使用頻度等により所要の性能が損なわれる恐れがある為、十分維持保全を行うものとする。
- (16) 当該防火設備内に物品が置かれると、所要の性能が損なわれる恐れがある為、十分維持管理を行うものとする。

申請仕様の空間構成の代表例を図1～2に示す。

設置場所(1)-1 乗降ロビーを設ける場合(乗り場戸の正面に防火設備)



設置場所(1)-2 乗降ロビーを設ける場合(エレベーター片面、防火設備片側)

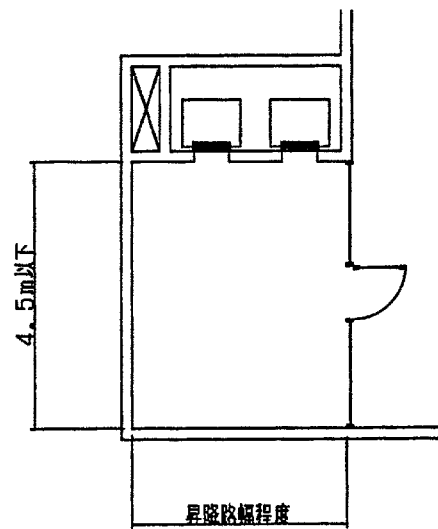
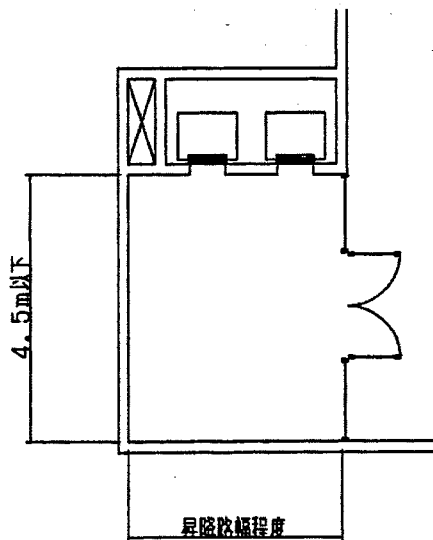
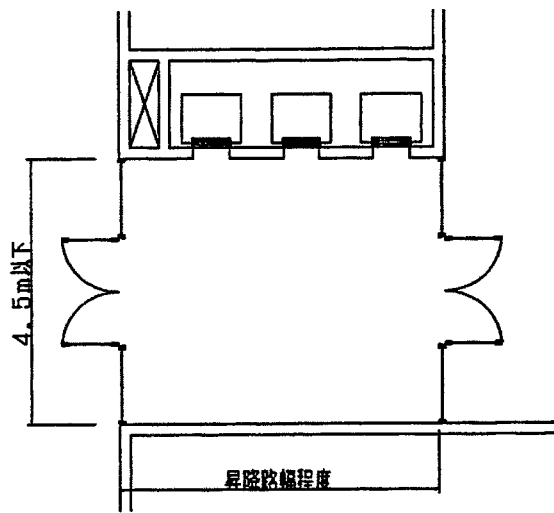
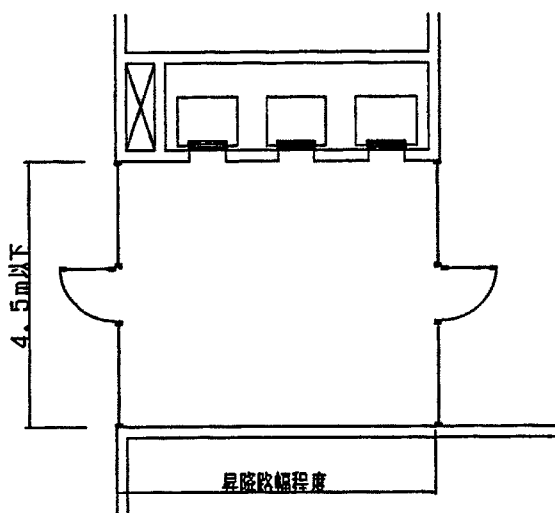


図1 配置図

設置場所(1)-3 乗降ロビーを設ける場合(エレベーター片面、防火設備片側)



設置場所(1)-4 乗降ロビーを設ける場合(エレベーター片面、防火設備両側)

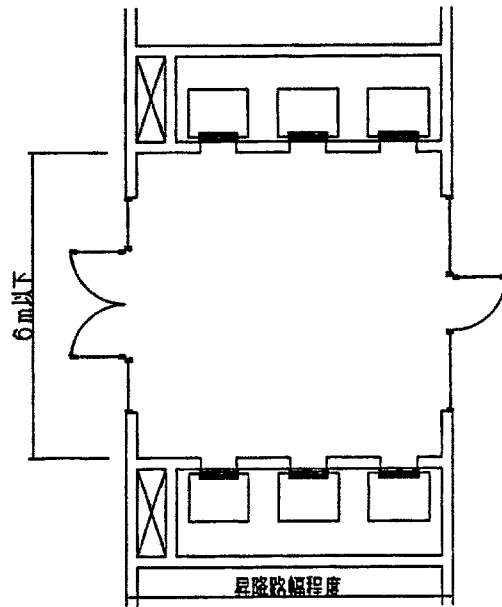
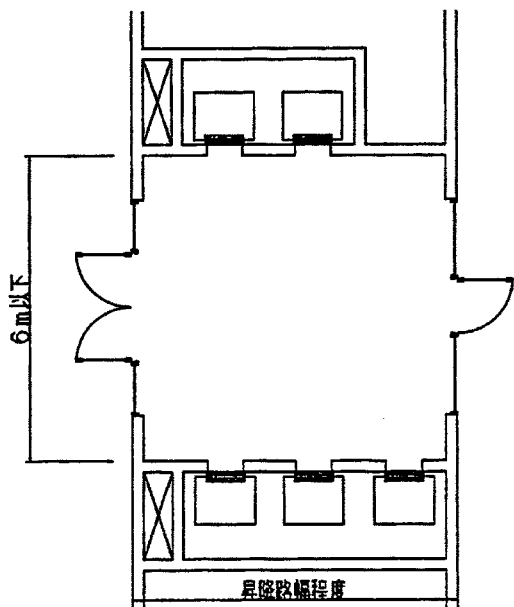


図2 配置図

3. 鋼製開き戸部の寸法：

申請仕様の鋼製開き戸部の寸法を表1、表2に、申請仕様の形式を図3、図4に示す。

(1) 両開き

表1 申請仕様の鋼製開き戸部の寸法

(単位：mm)

項 目		申 請 仕 様			
		①	②	③	④
開口幅		1500～4800	1500～4800	1500～3600	1500～2400
開口高さ		1800～3600	1800～2400	1800～2400	1800～2400
扉部開口幅	(W)	1500～2400	1500～2400	1500～2400	1500～2400
戸枠幅	(WW)	1550～4850	1550～4850	1550～3665	1550～2480
扉幅	(DW1, DW2)	759～1209	759～1209	759～1209	759～1209
扉厚	(DT)	45以上	45以上	45以上	45以上
扉部開口高さ	(H)	1800～2400	1800～2400	1800～2400	1800～2400
戸枠高さ	(HH)	1840～3625	1840～2440	1840～2440	1840～2440
扉高さ	(DH)	1802～2402	1802～2402	1802～2402	1802～2402
扉部ガラス幅		559～809	559～809	559～809	559～809
扉部ガラス高さ		1602～2202	1602～2202	1602～2202	1602～2202
枠見込み寸法	(w)	100以上	100以上	100以上	100以上
周壁部の仕様	(下部)	湿式工法 (モルタル等)			
	(三方)	湿式工法 (モルタル等) 乾式工法 (繊維混入けい酸カルシウム板等)			

(2) 片開き

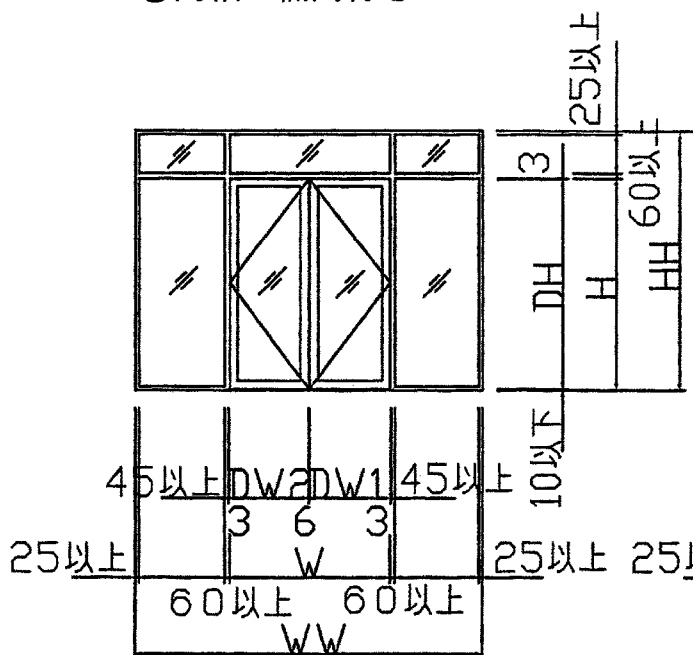
表2 申請仕様の鋼製開き戸部の寸法

(単位：mm)

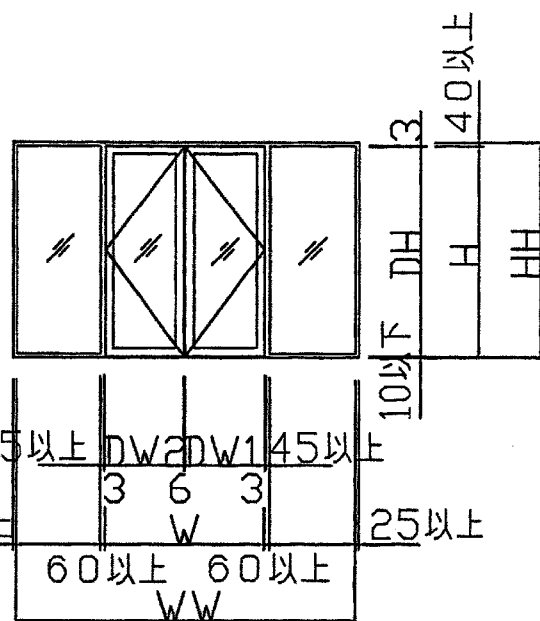
項 目		申 請 仕 様			
		①	②	③	④
開口幅		750～3600	750～3600	750～2400	750～1200
開口高さ		1800～3600	1800～2400	1800～2400	1800～2400
扉部開口幅	(W)	750～1200	750～1200	750～1200	750～1200
戸枠幅	(WW)	830～3650	830～3650	830～2465	830～1280
扉幅	(DW)	773～1223	773～1223	773～1223	773～1223
扉厚	(DT)	45以上	45以上	45以上	45以上
扉部開口高さ	(H)	1800～2400	1800～2400	1800～2400	1800～2400
戸枠高さ	(HH)	1840～3625	1840～2440	1840～2440	1840～2440
扉高さ	(DH)	1802～2402	1802～2402	1802～2402	1802～2402
扉部ガラス幅		573～1023	573～1023	573～1023	573～1023
扉部ガラス高さ		1602～2202	1602～2202	1602～2202	1602～2202
枠見込み寸法	(w)	100以上	100以上	100以上	100以上
周壁部の仕様	(下部)	湿式工法 (モルタル等)			
	(三方)	湿式工法 (モルタル等) 乾式工法 (繊維混入けい酸カルシウム板等)			

単位 mm

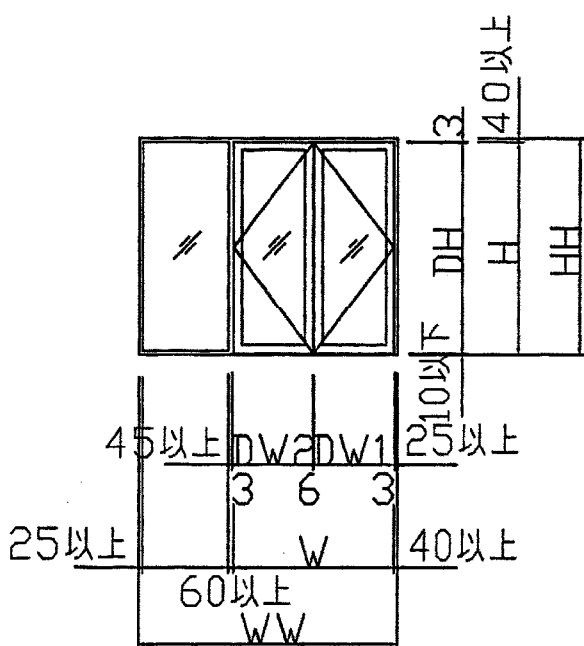
①両袖・欄間付き



②両袖付き、欄間無し



③片袖付き、欄間無し



④袖・欄間無し

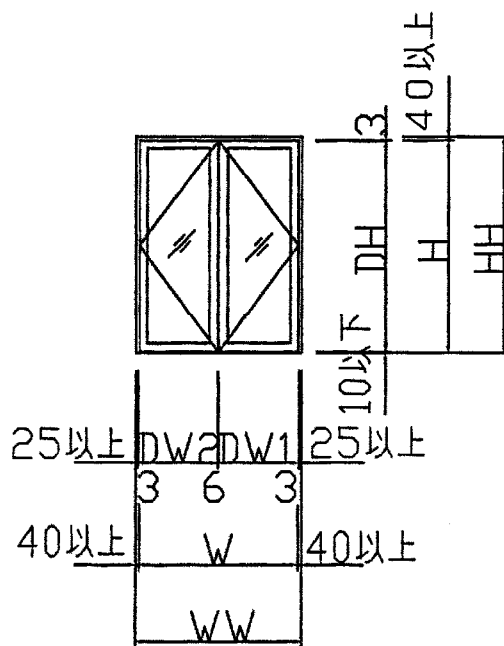
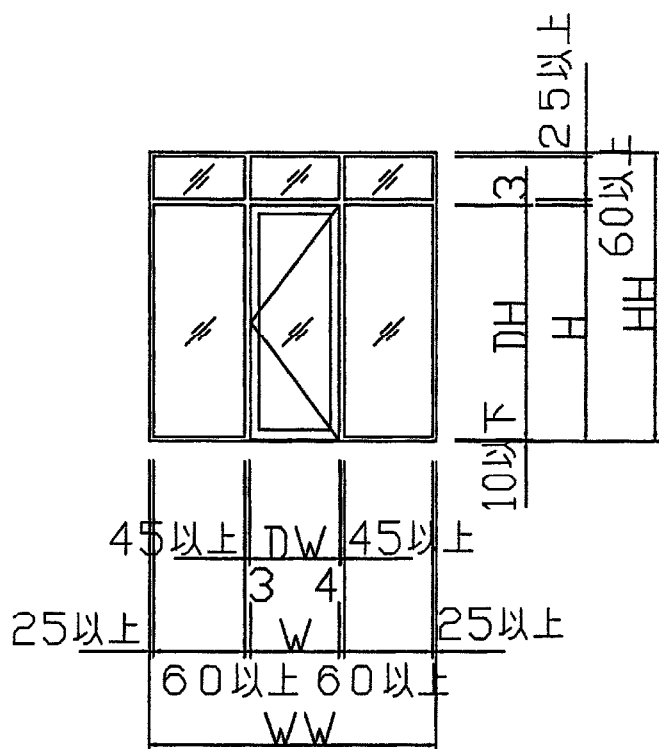
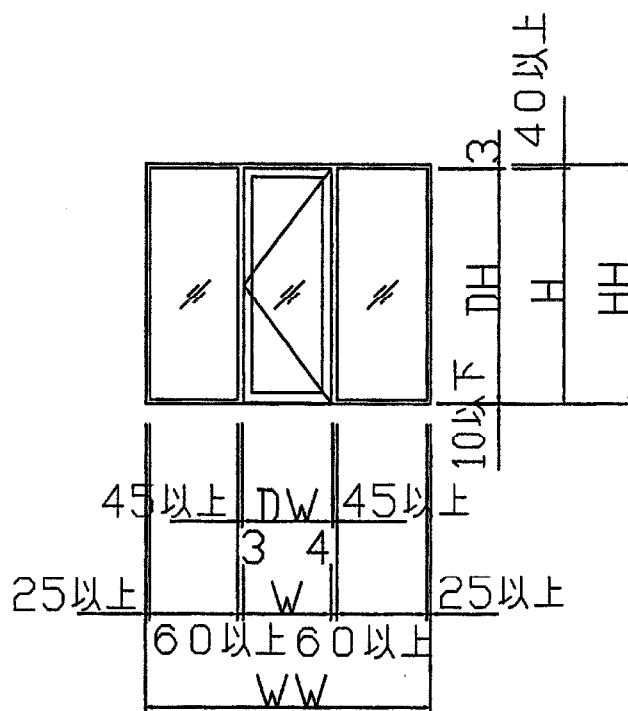


図3 両開き戸の形式

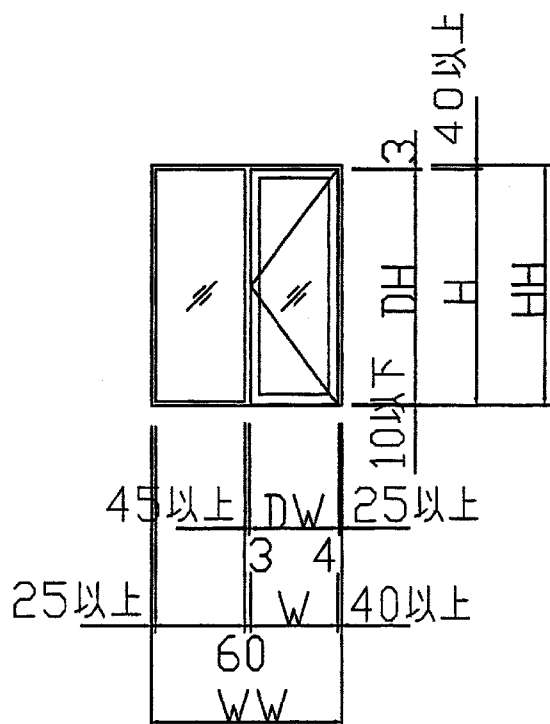
①両袖・欄間付き



②両袖付き、欄間無し



③片袖付き、欄間無し



④袖・欄間無し

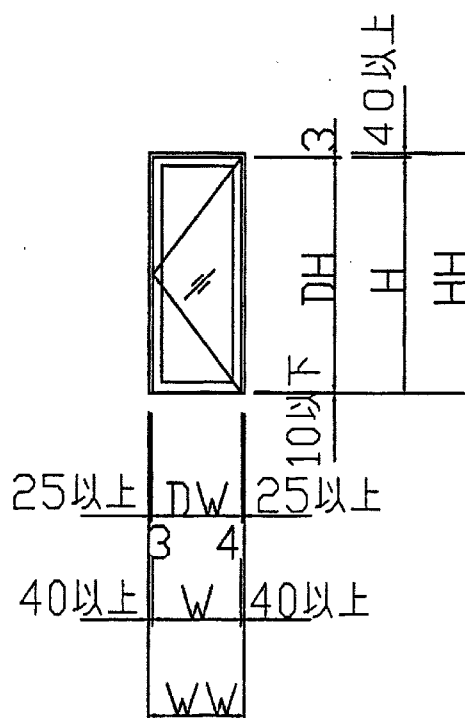


図4 片開き戸の形式

4. 閉鎖機構の仕様

申請仕様の鋼製開き戸部に使われている閉鎖機構の仕様を表3から表5に示す。

表3 ドアクローザーの場合

扉幅 DW	扉高さ DH	ドア質量	閉鎖角速度	閉鎖金物 設定トルク
759 ~ 923 mm	1802 ~ 2402 mm	118kg 以下	0.314 1/s 以下	73.5 N・m 以下
924 ~ 1073 mm	1802 ~ 2402 mm	103kg 以下	0.410 1/s 以下	73.5 N・m 以下

表4 フロアヒンジの場合

扉幅 DW	扉高さ DH	ドア質量	閉鎖角速度	閉鎖金物 設定トルク
759 ~ 1223 mm	1802 ~ 2402 mm	118kg 以下	0.262 1/s 以下	47.0 N・m 以下

表5 ヒンジクローザーの場合

扉幅 DW	扉高さ DH	ドア質量	閉鎖角速度	閉鎖金物 設定トルク
759 ~ 1223 mm	1802 ~ 2402 mm	118kg 以下	0.314 1/s 以下	33.0 N・m 以下

5. 鋼製開き戸部の主構成材料：

申請仕様の鋼製開き戸部の主構成材料を表6に示す。

表6 申請仕様の鋼製開き戸部の主構成材料

(単位：mm)

項目	申請仕様
上 枠・たて枠	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ1.6) JIS G 3302 又は、ステンレス鋼板 (厚さ1.5) SUS304、SUS316 JIS G 4305
下 枠*	ステンレス鋼板 (厚さ1.5) SUS304、SUS316 JIS G 4305
表面材・方立て ・無目・定規縁	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ1.6) JIS G 3302
たて框・上框 ・下框	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ1.6) JIS G 3302 又は、ステンレス鋼板 (厚さ1.5) SUS304、SUS316 JIS G 4305
力 骨	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ2.3) JIS G 3302
中 骨	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ1.6) JIS G 3302
ガラス	耐熱板ガラス (低膨張防火ガラス、耐熱強化ガラス、又は、耐熱結晶化ガラス)、 又は、上記の耐熱板ガラスを組み入れた合わせガラス (JIS R 3205) 又は複層ガラス (JIS R 3209)

* 下枠の無い仕様もある。

6. 鋼製開き戸部の副構成材料及び部材：

申請仕様の鋼製開き戸部の副構成材料は表7に示す。

表7 申請仕様の鋼製開き戸部の副構成材料

(単位：mm)

項 目	申 請 仕 様
アンカー	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ2.3) JIS G 3302 ピッチ：上下600以下、縦600以下
錠 前	鋼、ステンレス鋼、等 規格：ケースロック (ラッチ付き)
丁 番	ステンレス
ピボットヒンジ	ステンレスカバー付 鋳鉄
ヒンジクローザー (丁番型)	鋳鉄
ヒンジクローザー (フロア型)	鋳鉄
ドアクローザー	アルミダイキャスト 規格：ストッパーなし
自動フランス落し	ステンレス等 規格：両開きに適用
フランス落し	ステンレス等
閉鎖順位調整器	ステンレス等 規格：両開きに適用
気密材	EPDMまたはクロロブレンゴム
グレイジング用 シーリング材 (ガラス押え)	JIS A 5758 (建築用シーリング材) に規定するグレイジング用シーリング材で、「発熱特性試験」において、着炎時間が100秒以上かつ温度時間面積 (℃・分) が50以下のものとする。
押縁	溶融亜鉛めっき鋼板 (厚さ1.6) JIS G 3302 ステンレス鋼板 (厚さ1.5) SUS304、SUS316 JIS G 4305
押縁用ねじ	ねじ等 JIS G 430 (ステンレス鋼線材) に規定するSUS 304、JIS G 4303 (ステンレス鋼棒) に規定するSUS 302、JIS G 4309 (ステンレス鋼線) に規定するSUS 305J1、JIS G 4314 (ばね用ステンレス鋼線) に規定するSUS 304又はSUS 302、JIS G 4315 (冷間圧造用ステンレス鋼線) に規定するSUS 305j1、又はSUS XM7等の材質のものを用いる。
さび止め塗料	鉛酸カルシウムさび止めペイント JIS K 5629 塗布量 0.1kg/m ²

7. 鋼製開き戸部の構造説明図：

申請仕様の鋼製開き戸部の構造説明図を図5～図8に示す。

単位 mm

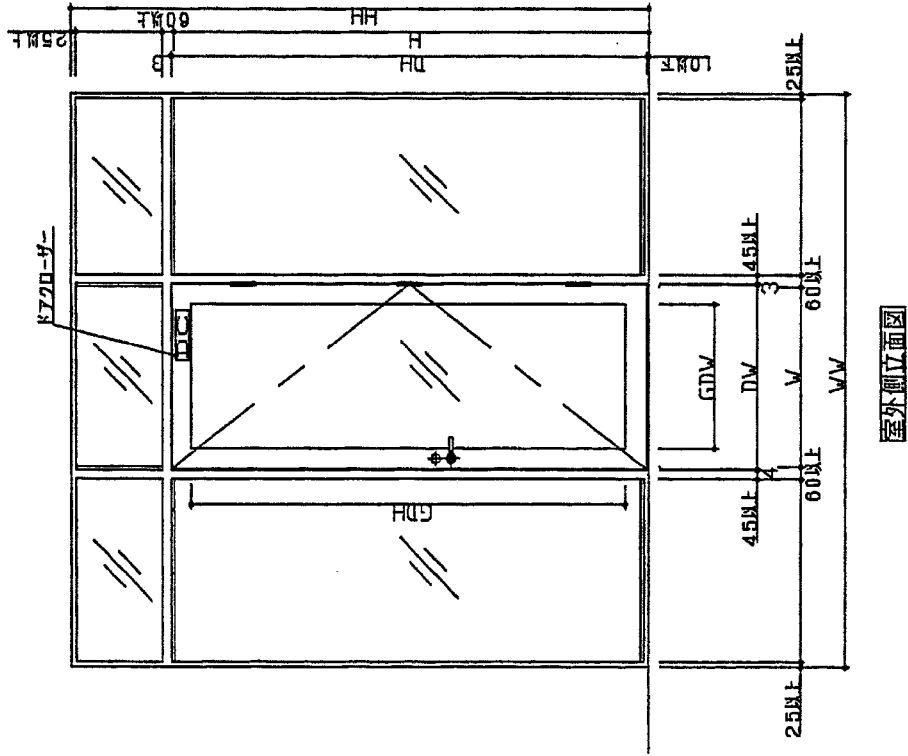
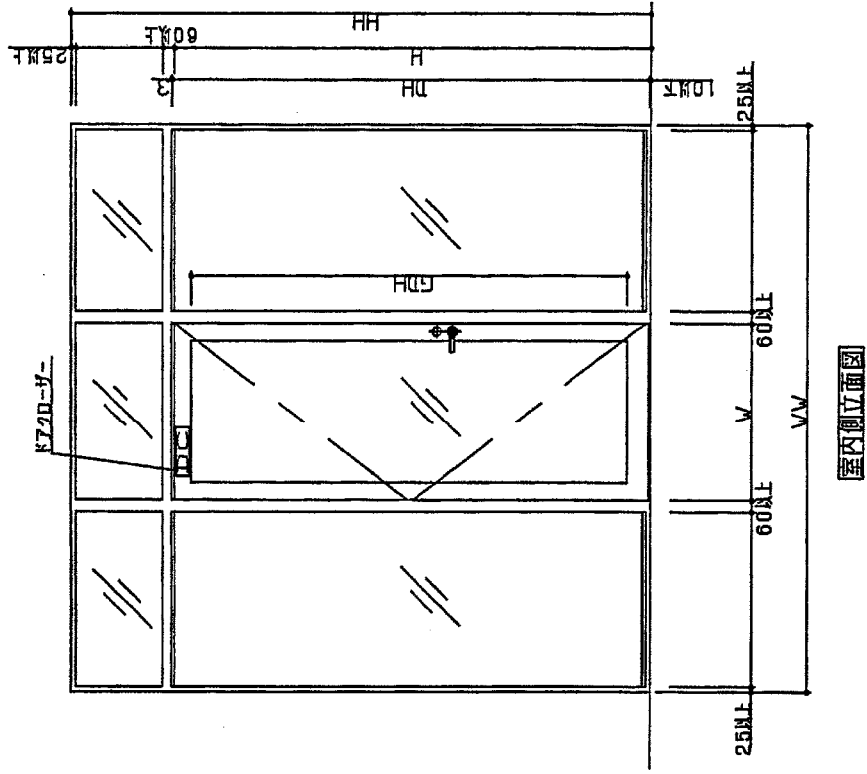


図5 構造説明図 (片開き)

単位 mm

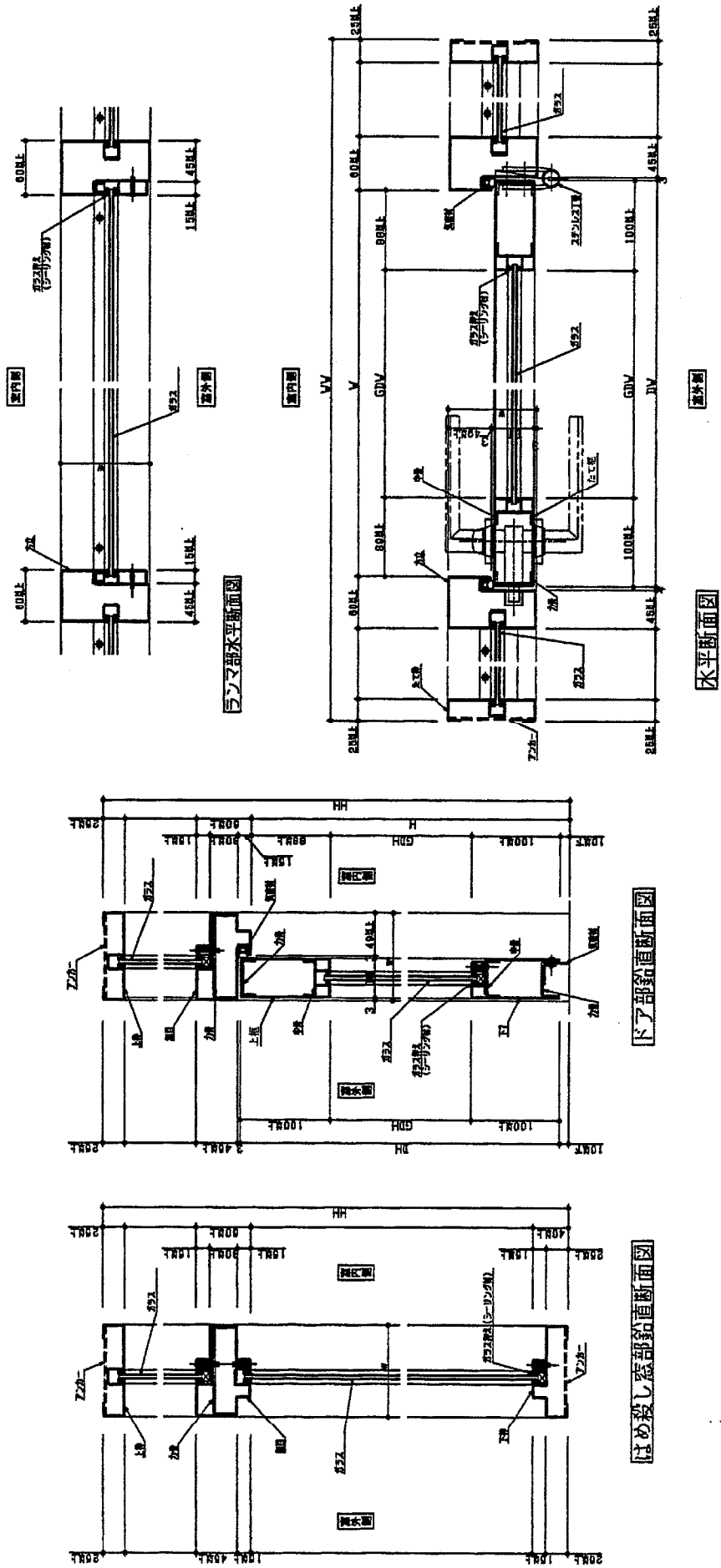
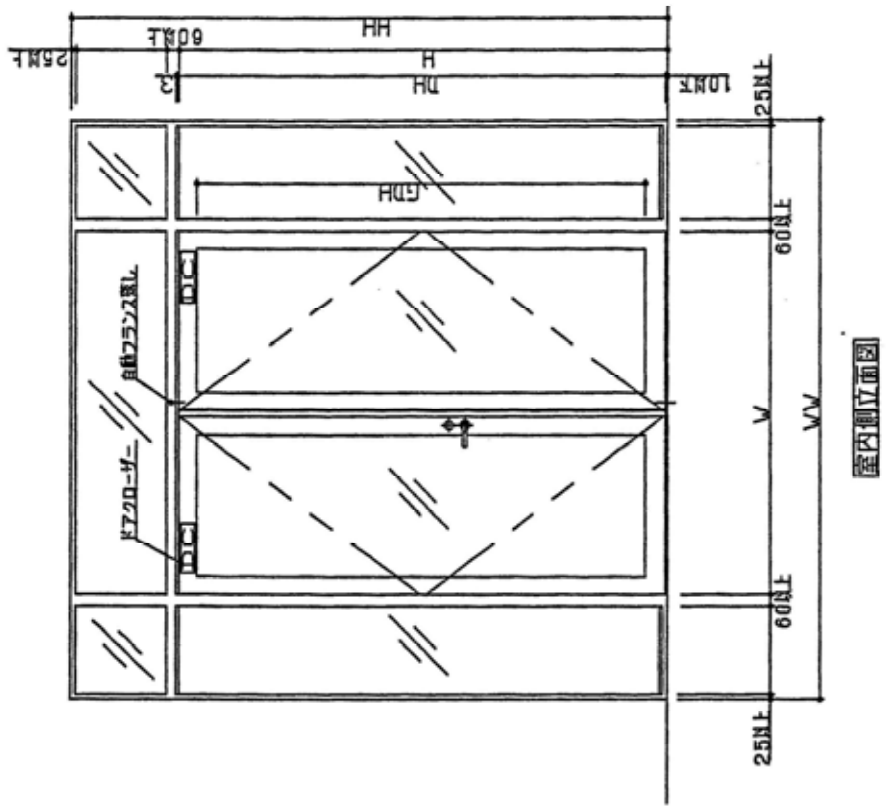
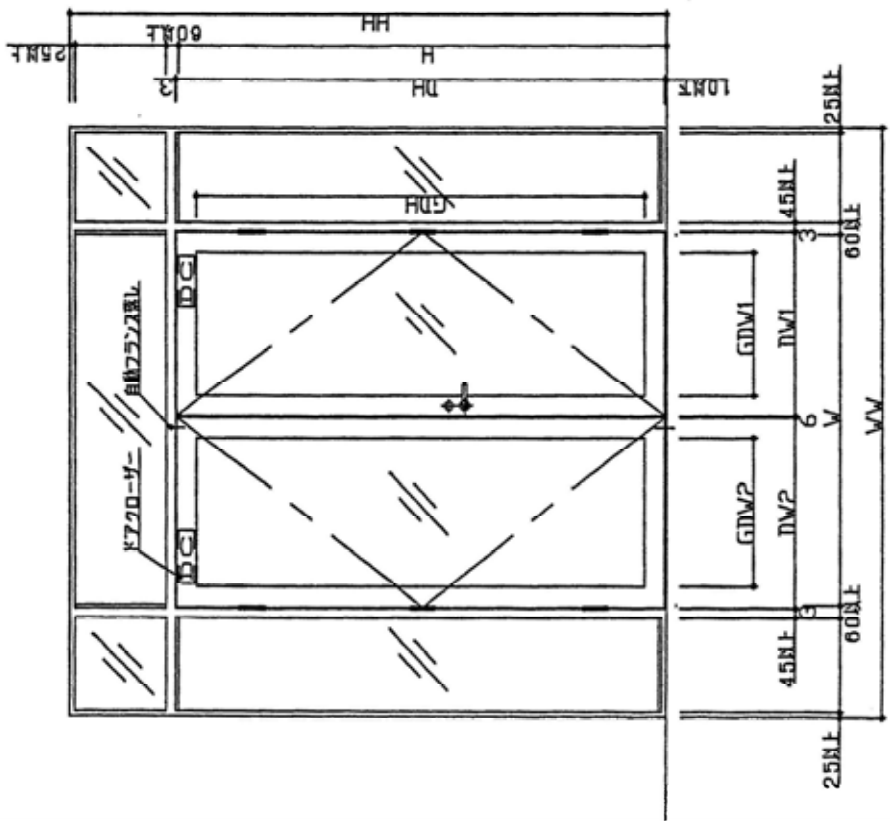


図 6 構造説明図 (片開き)

単位 mm



室内側立面図



室外側立面図

図7 構造説明図(両開き)

単位 mm

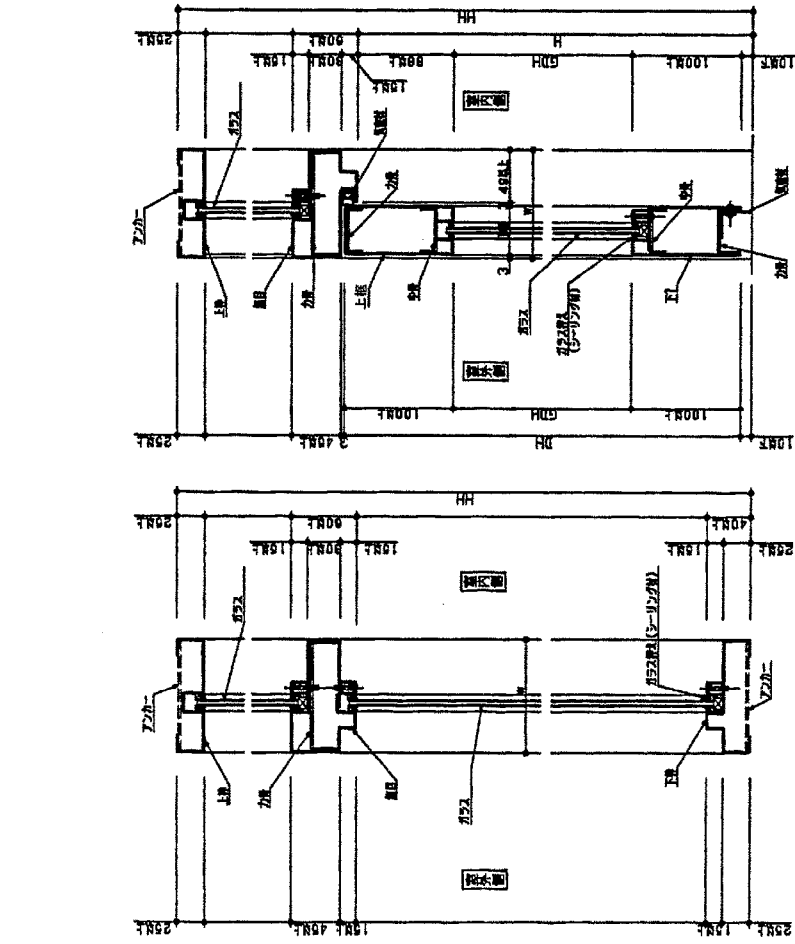
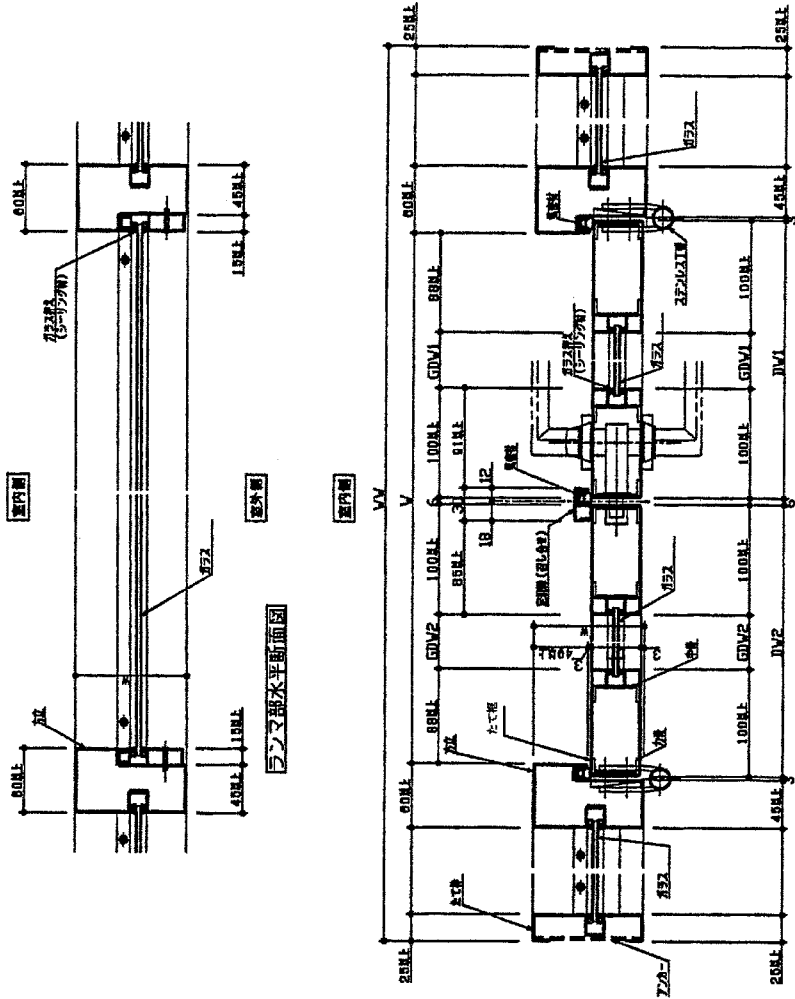


図 8 構造説明図 (両開き)